



ニュース > 社会

# 阪大・国循の元医師、がん論文不正新たに2本... 実験グラフに捏造や改ざん

2021/01/30 09:00

大阪大と国立循環器病研究センター（国循、大阪府吹田市）に在籍していた男性医師が研究論文5本で不正をしていたとされる問題で、国循の調査委員会（委員長＝仲野徹・大阪大教授）が新たにがん関連の論文2本で捏造と改ざんの不正があったと認定する方針を決めたことが、関係者への取材で分かった。2本の責任著者だった国循の元研究所長にも管理責任があるとみているという。

論文不正問題を巡る動き	2015年2月	がんに関する野尻医師の論文が米科学アカデミー紀要に掲載される
	6月	がんの論文を根拠に大阪大病院などが臨床研究を開始
	18年	大阪大と国立循環器病研究センター（国循）が告発を受け、野尻医師が執筆した21本の論文に関する調査委員会を設置
	20年8月	大阪大と国循が論文5本に不正があったと発表
	9月	国循の調査委が別の論文5本の調査を開始

男性医師は2001～18年に大阪大病院（同市）の医員や国循の室長を務めた野尻崇医師。野尻氏の論文を巡っては、21本について疑義があるとの告発が寄せられ、大阪大と国循は20年8月、うち5本でグラフの作成などに不正があったと公表。その後、21本とは別の論文5本を追加調査していた。

関係者によると、不正を認定する2本のうちの1本は、「心房性ナトリウム利尿ペプチド（ANP）」というホルモンに、がんの転移を防ぐ効果があると主張する内容で、15年に米科学アカデミー紀要に掲載された。

調査委は、この論文で示された動物実験のグラフが元データと食い違い、捏造や改ざんに当たると判断。「不正確な数値の手入力が行われており、意図がなければ起

↑

**「バカ売れのニューモ」使いすぎた男の末路**

ファーマフーズ

もっとみる

こり得ない」などとし、「故意による不正」と認定する考えという。患者での有効性を示すデータに不正はなく、論文の結論には影響がないとみている。

大阪大病院はこの論文を根拠に15年から臨床研究を始めた。肺癌患者が対象で、肺の一部を切除する手術の前後にANPを投与して5年間経過を観察する計画。現在は中断中で、参加10施設で投与を受けた160人に重大な健康被害は確認されていないという。

もう1本も同様にANPを使ったがんの抑制に関する論文で、データの一部に不正があったという。

一方、責任著者で、野尻氏<sup>かんがわ</sup>の上司だった元国循研究所長の寒川賢治氏については、「不正行為には関与していないが、論文の作成全体を統括する立場だった」として管理責任があると判断したとみられる。

野尻氏は既に大阪大と国循を退職しているが、大阪大は懲戒解雇相当とする処分を下しており、国循も調査結果を受けて何らかの処分をすると思われる。

無断転載・複製を禁じます



社会

PR 新型コロナの影響で 収入が減少し生活に困窮する方へ～政府広報

PR 「迷い」や「ためらい」の中にこそ、真実との出会いがある

注目記事

Recommended by Outbrain

**お尻のタトゥーはまさかの失敗作？ 鏡を見ると思い出す「ⅢⅤⅤⅢ」の教訓**

子育て

**また緊急事態宣言、仕事ばかりになる夫に泣きじゃくった私**

子育て

**神々や河童がそこに...遠野に残る「物語」の空気感**

We Love みちのく

**NHK受信料、不当に支払い逃れる人には割増金...総務省原案**

エンタメ・文化

**飲酒後に運転、カーブミラーに衝突...副市長の退職願を受理せず解職**

社会

**かわいいまま育て...ママの願いよそこに、親の知らない顔を見せ始めたみーちゃん** (2021年01月13日)

**勤務先で販売の弁当、タマゴ焼きに接着剤はがす溶液を混入...「職場の人間関係でトラブル」** (2021年01月29日)